

千年の森便り No.168

2017.07. 31

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

7月26日(水) 雨 夏のきのこ観察会

参加会員は新井通子、石松成子、鶴沢、久我夫妻、坂本、根本、福島、松田、真鍋、村野、山口の12名。

吹春講師は県中央博「きのこワンダーランド」開催中の忙しい日程をやりくりして、講師をお引き受け下さいました。遠くは静岡から鈴木さん、東京からきのこ勉強中の高校1年生の網代さん、東大奈良先生門下の留学生 Helbert さん、Jia・Mi 夫妻と3歳の坊や、柏から留学生とお子さんをお連れ下さった千葉菌の内藤さん、船橋から5月の観察会にご参加の川島さんと相葉さん、北部



林業の塚原さん、最近千葉菌に入会の山川・村本さんと高島さん、千年の森常連の森さん、小山さん、大蔦さん、野鳥とランときのこに詳しい加藤さんも久しぶりのご参加で、多彩な顔触れ、総勢30名でした。

この日は雨、7月に殆ど雨が降っていませんでしたが、きのこは多くはありませんでしたが、講師の興味深い解説で、少ないきのこをじっくり観察することができました。

雨の中ご参加の皆さま、お疲れ様でした。今回は天候ときのこに恵まれませんでしたが、恵まれるときもあります。またご案内しますのでこれに懲りずにご参加下さい。(真鍋)

〇きのこ観察吹春コース

小雨の中、巨木林と祠山の間あたりから観察開始、意外に早くキアミアシグチ、その後コシロオニタケ、ミヤマザラミノヒトヨタケなどの収穫があった。

コシロオニタケは孢子に特徴があるとの吹春先生の話、ヒトヨタケは緑から黒の孢子に代わりその後時間の経過とともに溶けていくというお話など聞きながら。その後シイ、カシ林に見られる、ポタンイボタケを、また少し離れてコテングタケモドキ。

その後いったん広場に戻り、ホテイ岬方面を観察したが、キノコは少なかった。



〇吹春講師解説

・ベニタケ(ルスラ)の仲間が採れた。名前のつかないものが多いが、シイ、カシと共生する外生菌根菌であり、森の中では大事なきのこ。クロムヨウランもベニタケの仲間から栄養をもらっている。

・ツチカブリなど乳が出る仲間をラクタリウスと言う。かじると味は辛い。猛毒のきのこでも、吐き出せば、かじって味をみるのはOK。ただし、カエントケだけはかじってはいけない。

・テングタケの仲間(アマニタ)は3種採れた。カブラテングタケは、この森が東南アジアに繋がっていることを示すきのこ。



- ・ウラベニガサの仲間で、ヒョウモンウラベニガサが採れた。傘がヒョウ柄で、傘の裏がピンク色（胞子がピンク色から明るい茶色）。あまり見ないきのこ。
- ・イグチの仲間は2種採れた。
- ・サケバタケはニッケイの香りが強い。参加者からは、バカマツタケの香りにも近いという感想があった。
- ・ほかに、チャワンタケの仲間が、枯れ枝に菌核のようなものを形成し、表面が黒く硬くなっているものを観察したり、坂本代表がチダケサシを持参し、チチタケの代わりにベニタケの仲間を使って、採ったきのこを茎に刺して集める様子の実演があった。（福島） この日観察したキノコ目録は3頁に記載しています。

○植物観察

きのこ探しの合間に、シャクジョウソウやクロムヨウラン、ツチアケビなど菌類と共生する、「菌従属栄養植物」と呼ばれるラン科の植物を見つけ、吹春先生とランに詳しい加藤さんの解説を聴くことが出来ました。（詳しくは4頁に転載の、加藤さんのブログ「千年の森に眠る菌類と花たち」をご覧ください）

ツアー開始後まもなく、シイ・カシ林の片隅に紅色のシャクジョウソウが見つかりました。紅色は2011年夏以来6年ぶりの発見です。また森のあちこちにクロムヨウランの蕾と花を見ましたが、満開の花を見ることは出来ませんでした。ホテイ岬保護柵内には部分的菌従属植物のイチヤクソウが実をつけていました。柵の外には殆どなく、柵内に多数あるのは、動物の食害から保護されている証拠でしょうか。

ヒメコマツ柵内のツチアケビは3株中2株が枯れて黒変し、1株は生きていますが株が衰退気味で実を3個残すのみ。巨木林保護柵内と千年広場南の株は全滅。DNA解析のため、東大のHelbertさんに黒変株の白いカビを採取していただきました。健在なのはマダケ林の2株のみでした。結実終了の株の保護柵は野鳥・動物の食餌にするため秋に撤去予定ですが、果実が硬くなる秋まで保護した方がよいとの加藤さんのご意見に従い保護を続けます。（真鍋）



白カビつけた黒変ツチアケビ



今年生き残ったツチアケビ

（ツチアケビ画像は Mr.Helbert 撮影）

○センサーカメラの画像から

6月29日にニホンジカがたくさん写っていました。カメラの設置場所はトビの巣を見下ろす場所近くの通路脇です。運よくカメラの直前で行動してくれたので、トリミング不要で画面に収まりました。



12時06分 モチノキと思われる切り株の萌芽を食べ始めました。



12時07分 首を上げ口をモグモグしながら周囲を見渡し安全確認をしているようです。



14時45分 一度切り株から離れた後、再度やって来て残りの葉を食べていますが、ほぼ食べ尽くして株は丸坊主に。

シカ以外には吊り橋上の糞の落とし主と推測されるアライグマ、夏毛のため痩せてみずぼらしく見えるタヌキです。（坂本）

7月26日 キノコ目録

科	属	種
キシメジ科	ダイダイガサ属	ダイダイガサ
テングタケ科	テングタケ属	コテングタケモドキ
テングタケ科	テングタケ属	カブラテングタケ
テングタケ科	テングタケ属	コシロオニタケ
ウラベニガサ科	ウラベニガサ属	ヒヨウモンウラベニガサ
ナヨタケ科	ヒメヒトヨタケ属	ミヤマザラミノヒトヨタケ
イチョウタケ科	サケバタケ属	サケバタケ
イグチ科	キヒダタケ属	キヒダタケ
イグチ科	イグチ属	キアミアシイグチ
ベニタケ科	ベニタケ属	ベニタケ属種数種
ベニタケ科	チチタケ属	ツチカブリ
イボタケ科	イボタケ属	ボタンイボタケ
イボタケ科	イボタケ属	イボタケ属種
タマチヨレイタケ科	ヒトクチタケ属	ヒトクチタケ
タマチヨレイタケ科	タマチヨレイタケ属	アミスギタケ
タマチヨレイタケ科	ウチワタケ属	ツヤウチワタケ
タマチヨレイタケ科	オシロイタケ属	オシロイタケ属
タマチヨレイタケ科	シュタケ属	ヒイロタケ
タマチヨレイタケ科	カイガラタケ属	カイガラタケ
タマチヨレイタケ科	Favolus 属	スジウチワタケモドキ
タマチヨレイタケ科	ケガワタケ属	ケガワタケ属
タバコウロコタケ科	サビアナタケ属	ネンドタケ
チャワンタケ属の菌糸に覆われて菌核状となった木の枝		

(記録;松田)(監修;吹春)

チダケサシの事

チダケとはチチタケ（乳茸）のことで、このキノコを熱狂的に愛する北関東の呼び名です。キノコ好きの松田会員にその調理法と美味しさを語らせたら、尽きる事が無いでしょう。

チダケサシ（ユキノシタ科）は7月に細かなピンクの花を穂状に付ける野草です。園芸種として売られているアスチルベも同じ仲間です。茎は細くて竹串のように固いので、チチタケが取れた時に箆や袋などの入れ物が無くてもこの草の茎にキノコを挿せば壊さずに沢山持ち帰れます。

夏のきのこ観察会ではチチタケが取れるのを期待してチダケサシを一枝持って行きましたが、肝心のものが取れなかったため、近縁のベニタケの仲間を代用して使い方を実演しました。ちんちくりん名前の由来、意味が分かったと思います。数ある植物名できのこに因んだ名前はチダケサシ以外に思い浮かびません。（坂本）



千年の森に眠るきのこたち

(ブログ「千葉県自然見〜つけた」より)

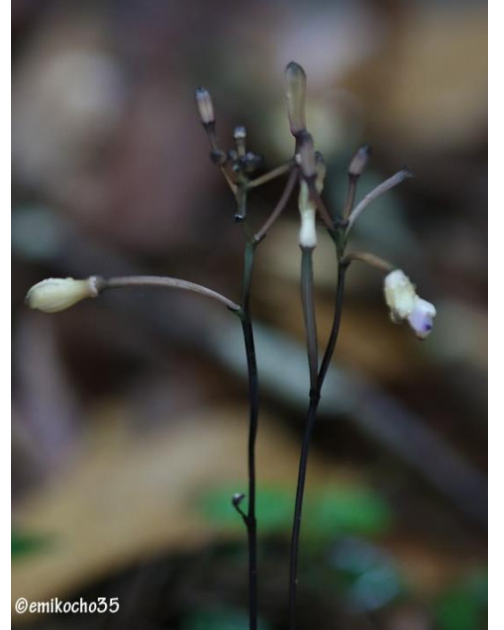


今日は君津市豊英湖のなかに浮かぶ豊英島へ。『ちば千年の森をつくる会』の夏のキノコ観察会へ参加しました。雨が降らないので湖の水位が下がっていますが、今日は雨。皮肉なものです。



鍵のかかるつり橋を渡って別世界へ。ここは本当に素晴らしい自然が残されている場所なんです。

普通のシャクジョウソウはクリーム色ですが、これは美しいバラ色をしています。乾燥のせいかわくわく黒くなってしまったのがちょっと残念ですが、まだこの森にあったということがうれしいです。



そしてこの森で忘れてはならないのがクロムヨウランですね！過去記事のほうにはきれいに開花したものが出ていますが、今日はこんな具合。まだつぼみがたくさんあるので毎日行ければ綺麗に撮影できるのでしょうけど・・・。

シャクジョウソウもクロムヨウランも自分では栄養を作ることができず、菌類から栄養をもらって生きています。樹木と土の中の菌類がきちんと機能している、豊かな森ならではの植物ですね。クロムヨウランは島のあちこちに。なかなかこれほどの群落を他の場所では見ることはできません。

さて、肝心のキノコですが・・・このところの乾燥でほとんど出ていませんそれでもみんなで探すと名前の付くものだけで24種類とけっこうたくさん集まりました。

一番私がいいな、と思ったのはヒョウモンウラベニガサ。裏はピンク、傘はヒョウ柄のおしゃれなキノコでした。



講師の吹春先生が丁寧に一つ一つ説明していきます。「カブラテングタケはここにもあるが東南アジアにも生える。つまり東南アジアとここはつながっているのです。」と説明した時、参加者から



「東南アジアではどんな樹種の森に生えますか？」と難問が。すると先生は「Quercus や Castanopsis です」とサラッと答えて、インドネシアから来ている東大の留学生さんも、「Yes! Quercus!」と感心していました。観察会の講師たるもの、かくありがたいものですね。ちなみに今日はチチタケの仲間はツチカブリだけでした。ツチカブリを初めて見た人恒例の「味見」を吹春先生にさせられた川島さん、辛〜い洗礼を受けて、忘れられないキノコの一つとなったかも・・・？雨の中の観察会でしたが、会の皆さんの心配りのおかげで、安全に楽しく参加することができ、珍しいものをたくさん見る事ができました。お世話になった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました！

「東南アジアではどんな樹種の森に生えますか？」と難問が。すると先生は「Quercus や Castanopsis です」とサラッと答えて、インドネシアから来ている東大の留学生さんも、「Yes! Quercus!」と感心していました。観察会の講師たるもの、かくありがたいものですね。ちなみに今日はチチタケの仲間はツチカブリだけでした。ツチカブリを初めて見た人恒例の「味見」を吹春先生にさせられた川島さん、辛〜い洗礼を受けて、忘れられないキノコの一つとなったかも・・・？雨の中の観察会でしたが、会の皆さんの心配りのおかげで、安全に楽しく参加することができ、珍しいものをたくさん見る事ができました。お世話になった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました！

(加藤恵美子さんのブログ「千葉県自然見〜つけた」7月26日記事「千年の森に眠る菌類と花たち」より一部転載させていただきました。ブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/emi3merlin/49882271.html> を是非ともご覧ください。)

豊英島さのこ観察会に参加して

船橋市 川島千恵子

今回2度目となる豊英島への訪問を、私は何日も前からとても楽しみにしていました。一つには初めて訪れたときの印象がとても素晴らしかったこと。もう一つは吹春先生のご案内でキノコを観察できることへの期待、この二つが大きな理由です。

今年5月に初めて訪れたとき、この島の植生の豊かさ、貴重な植物の宝庫に目を見張りました。それらを大切に保護し、鹿などの食害から守る努力を重ねていらっしゃる「ちば千年の森をつくる会」の皆様の熱心な活動とともに、会員の皆様の温かいおもてなしに感動しました。

私はこれまでたくさんのキノコに出会いながらも、何かと言いつく作っては、キノコの世界を後回しにしてきました。しかしその美しい姿や色形は本当に魅力的で、嬌然と手招きされているように思えます。吹春先生の講座や観察会に参加させていただく度に先生の気さくなお人柄にも惹かれて、ようやく菌類の世界へ始めの一步をスタートさせました。今回は朝から大雨で、一時はどうなるかと思うほどでしたが、観察会が始まる頃には雨のことはすっかり忘れてしまうほど、目は夢中でキノコを追っていました。

午後は採集したキノコを並べ、その特徴や生態などについて先生から丁寧なご説明をいただきましたが、初心者の私にはわからない言葉も出てきました。その中でツチカブリというキノコのかけらを恐る恐る舐めてみたときのあまりの刺激的な辛さにしばらく舌がしびれていたことなどは忘れられません。

また、たわわに実をつけたツチアケビ、地味ながらも気品のあるクロムヨウラン、存在感のあるシャクジョウソウなど、菌類と共生して生きる植物たちの姿に、豊かな森の連鎖を実感できたことは、大きな喜びでした。今回も会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。また、お訪ねできる日を楽しみに致しております。



ツチカブリを味見する川島さん

Mushroom Observation in The Sennennomori

Helbert D1 Student from Indonesia

Thank you very much for your guidance last Wednesday, I really grateful. even though I cannot find the ベニグチ, I have learned many things from your members and from Fukiharu-sensei.

Hereby I sent you my impression for the mushroom observation in The Sennennomori.

This is my first time attending a mushroom observation event. This activity is about knowledge sharing from professional (researcher, professor, forestry agency) toward common people. Since Japanese people really like to consume mushroom, this kind of knowledge sharing is really helpful, especially to prevent any accident related to mushroom poisoning. This activity is also good to generate an amateur mycologist. Maybe I'll try to start this kind of activity back to my home country. Overall, I really recommend this event for anyone interested in mushroom.

Mr.Helbert は東大奈良研究室博士課程で研究中のインドネシアからの留学生です。ベニグチの標本採取と自生状況調査を主目的に、参加されましたが今回はベニグチに出会うことが出来ず、次の機会に期待しています。

千年の森きのご観察会に参加して

船橋市 村本 桂子

7月26日、豊英島でのきのご観察会に、初めて参加させていただきました。

当日は朝起きると生憎の土砂降り、前日までの猛暑もあり、きのご観察には最適とはいええない天候でしたが、午後には雨も止む予報で、とりあえず行こうと、清和県民の森へ向かいました。

到着する頃には雨は小降りになっており、雨にうたれた木々の香りを感じながら、美しい緑に覆われた森の中をみなさんと歩き、吹春先生はじめ、みなさんとても森の生き物のことにお詳しく、丁寧に説明していただき、自然の不思議とみなさんの森への熱い思いに感激した一日でした。楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

7月30日(日)曇 植生調査の臨時活動日

秋元さん、新井通子さん、石松成子さんの3人は植生調査のため、豊英島に出動しました。26日に開き始めていたヤマユリが咲いていました。紅色のシャクジョウソウが、少し背を伸ばしていました。シラヤマギクやオケラも咲いていました。この4-5日降った雨のせいかキノコもちらほら出始めていました。



お知らせ

〇8月定例活動日

8月20日(日)9時30分君津市自然休養村管理センターに集合、当初予定していた光環境調査(相対照度調査)は9月に延期します。植物、野鳥、昆虫調査などの個別活動は実施を予定しています。

〇中央博企画展「[きのこワンダーランド](#)」を開催中(1期:9/10まで)

美味しいきのこが地球環境も支えている!? 実は、森はきのこがいないと生きていけないのです。そんなきのこの世界がまるごとわかるワンダーランド!めずらしいきのこも大集合!きのこを生み出す菌の力にもせまります。1期は子どももたのしい展示とイベント盛りだくさん、2期は大人も楽しめる素敵なきのこの展示会、となっています。

<主な展示項目>・きのこって何?・ヘンテコなきのこ・闇に光るきのこ・不思議なきのこライフ

・食べるな危険、毒きのこ ・食べ物をおいしくする発酵パワー・世界のきのこ文化

<講演会>「ランときのこと森の不思議」

日時 8月20日(日), 13時~16時 演者 奈良一秀(東京大学)・大和政秀(千葉大学)